北大惠迪寮落書集

北大惠迪寮落書集

目次

はじめに……1
南寮階上……5
南寮階下……29
中寮階上……47
中寮階下……73
北寮階上……89
北寮階下……109
新寮階上……131
新寮階下……149
おわりに……169

☆はじめに

めったに干しもしない薄汚れた布団から顔だけを出し、何気なく見上げると、見慣れた足跡が目に飛び込んで来る。天井に残された落書きの間をぬって、黒墨の足跡が歩いている。今も脳裏に残る印象的な落書きだった。

北大恵迪寮に入寮した時、私の目には先輩達すべてが大人に見えた。自分もそうなれるのだろうか、と不安を抱く程に大人に見えた。寮生達の本棚には難しそうな書物がぎっしりと並び、部屋や廊下の随所に情熱と哀愁に充ちた名（迷）言が落書きされていた。その中で寮生達は傍らに酒をおき、夜を徹して、天下国家を論じ、人生を論じ合っていた。

今、大学で学んだことは殆ど忘れてしまったけれど、恵迪で学んだことだけは相変わらず自分の内に生きているように思う。共に暮らした寮友達と、数多の先輩方が築いて下さった伝統のお陰である。

本書は、北海道大学第二代恵迪寮の各部屋・廊下に記された落書きを編んだものである。

周知の如く、第二代恵迪寮は、昭和六年（一九三一年）十一月二十一日より昭和五十八年（一九八三年）三月三十一日までの、五十余年にわたり、その生命を育み続けた。しかし、その間壁の塗り替えなどがあった為、本書掲載の落書きは昭和三十年代後半以降のものである。また、障害物等で調査出来なかったり、全く落書きの無い部屋分は掲載していない。

但し、

一、旧字、誤字を含め可能な限り忠実に再現した。

二、壁が剥がれていたり、乱筆であるために、解読出来ない文字は「□」印で表現した。

三、出身高校や氏名のみの落書きが多数あったが、割愛した。同じく掲載分落書きの寮生個人署名も割愛した。

自治寮恵迪の歴史的躍動は二巻の「恵廸寮史」にくわしい。一方、本書は単なる落書きの記録資料に過ぎない。にも拘わらず本書には、恵迪寮に生き続けた精神の一部が凝縮していると思う。

開拓記念村に再建された寮舎は美しい。しかし、中身は無い。その中身を残すという目的と自己満足という動機に従って、本書の刊行を進めてきた。ところがこうして形が出来上がってくると、少々色気が出てしまう。

願わくば本書が後輩寮生諸君の未来と卒寮生の現在の役に立てば、と。

一九九三年　春

北大恵迪寮卒寮生

榊原悟志

南寮階上

【一号室】

生まれてから今迄しゃべってきた云葉は修正されなければならない。

作家の原稿　九、二十、一九五〇

シンコクに女を想へる男
女はその半分も想はざりき　九、一九、一九五〇

胸のちくちく痛むたびに
同じやまいを痛む愛らしき女を思ひいづる
九、十七、一九五〇

今日とはなんだ、私たちが未来へ移生きそして
今生きている永久性の見本にほかならぬ

悲しみばかりに浸ってはいられない
僕の出口を見つけなければならない

汚らしい下駄がかたいっぽうある
それを見て笑ったり泣いたりおこったりする人もいる

一〇、一〇、一九五〇

Mein Leben ist ein küksches mürchen.

俺は苦しい。
苦しい対象が内面的人格にあるがゆえに
かの果てしなき恐怖が俺をことさらに苦しめる
目的？　どうり？　責任？　・・・・・・・
まさに非嘆のみである
宇宙の真理は凡ぞ個人的真理であり。

政治を軽蔑する人間は軽蔑するに値する政治しかもてないのであり
脱政治的脱階級的人間は結極政治にほんろうされる人間でしかない

九、二三、一九六九

映画ベスト五
一、明日に向かって撃て
二、エデンの東
三、フォロー・ミー
四、東京エマヌエル夫人
五、寅さんシリーズ　一二、四、七五

【二号室】

後に来たりし者よ
我がこの室在住の間

求めつつも得ずに終わったそのものを汝ももとめ憧れよ
さらばいつの日か神秘の扉は開かれん

青空のもとに
風わたれば　しみじみと草ゆれて
懐しき人の横顔にも似れるその丘よ

我ありて我ここに存在せり
尊きものは我のみ

我魂を生かしむるものは我なり
我を□るを我を永遠

求むるもの、真・善・美

女は男の可能性をはばむ動物なり

【四号室】（含む三号室）

しばし樹林をさまよいて白雲の里の尋ぬるか

幾歴来酸志始堅
大夫玉砕愧甎全
一家遺事人知否
不為兒孫買美田

淫蕩な女が　純潔な詩集を愛読した
純潔な詩集
著者が淫蕩なその女を愛撫した

反ユダヤ　反民主　反共産

やきもちやきの女ととといてなんととく　　田中美智子
やみにおびえたる小犬と解く
そのこころは
うるさい。ばかばかしい。腹が立つ。

我に友なし

巷に風の吹く日あり　胸に懐の湧く日あり

存在せざるもののごとく美しきものはなし

過去的自己との断絶を

死ぬべきまえだ　まだ死なず

ばかめ、殺せ

再試勉強のため宿泊する

真実諦め只一人　真実一路の旅を行く
真実一路の旅なれど　真実鈴ふり想ひ出す

仏の甚大、愛飲酒多飲（アイン シュタ イン）
愛読書可不可

壮麗の地に野心培う

ウジリアム・ヘーゲル（ドイツ留学生）
テンシャントロプス・ワイヒロフ（ベトナム倍償留学生）
ウンチリヒ・クソタレス（ギリシア留学者）

死して護国□ならむ

盃に涙溢れていたりけり

講議をネグリして敢々として読書に耽るを賢人といふ
人望を得むと勉むは凡人なり
沈没して世事を思はむは愚人なり
徒らに寝ては唯一途を□□待ち野に出でて
他人の□□羨む者を痴人という

俺は恵迪に金を恵んでやる

人生の五月はただ一度咲くのみ

健康、落着、分別、常識、精力、忍耐、無欲
右の文句を実行したる者を模範寮生とす

年に行き来のしげくして

人は暮にぞくだりゆく
さはいえ己が胸の内に
残れる恋に消ゆべしや

神のような貴女を愛するなんて大きな罪悪だと思ったのです

マルクス帰れ！

吾等一同諸兄等に宣言する
吾等再軍備を望まんと
はたまた旧軍閥の復活を望まんと
剣道をするに非ず
新時代感覚と新しい時
□練を目指して□□のである

全共闘の革命的再編争

七〇年安保粉砕

酒は飲むごとに酔ひ
恋は為す程に悩む

三号規約第一条
朝寝して夜寝るまでに昼寝して時々起きて居眠りす
三号規約第二条
女性に飢へたる者
汝異性に愛される自信なきことを悟れ！

人生の致命傷は怠慢あせりである
何事においても寝首をかかれる様なことをしてはいけない

忍ぶれど色に出にけり我が恋は
物や思ふと人の答ふ迄

絶望のために一生を捧げて
だからその愚を喘う者は畢竟人生に対する路傍の石にすぎない

□□して夜の騎士道にはげむべし

人は苦しむべし悲しむべし
そして人生を豊かにすべし
やは肌の熱き血汐に
ふれせで淋しからずや

最も尖鋭に
最も果敢に
最もラジカルに
野生へ肉薄する

北大ヒグマ研究フループ

窓ションをしない様な奴は此の部屋に来るな

M・M・

いさみありし日の我がひどきしうちを
くやしく思いけむ
いさみよ
汝の小さくかわいらしき
二センチばかりのありさまの
まざまざし自分のあいだに□りにただよいて
手厚く現わざりし日の悔いは
我れを放しめ
いさみの□□し

万才　大日本帝国万才

やわ肌の甘酸きリンゴをアタックせで腹がへらず

Will ich dich lieben
durehs ganze Leben,
mit dir leben,Sterben!
Deinbinldiu Dubist mein!
Nur,Unter die Zweisankait iot Ruh!

October 1953

Wo ein treues Herze in Liebe von goht
Da welken die Lilien auf jedein Boat!
Da mup in die wolken der Vollmant gehen
Damt seime Tränen die Mordu--midt--
Da halton du Englein die Algen sich zu Vind.
Schluchzen und singan die Jede zun Ruh.

春読むは春意に悖る
夏はただ寝てこそ過ごせ
冬暮れてあわたゞしくは
しばし待てまた来ん春を

こころせよその時代はすでに過去っているのだ
愛は人生の無意味に対する唯一の救いである

人生は本質的に孤独なものらしい
しかしやはり自分は人を愛したいし愛されもしたい

酒は益々理性を鼓舞する

花と咲くより踏まれて生きる草の心が俺は好き
好きになってはなれない恋に泣けば雨降る講道館

男涙は見せないが　意気意気とが触れて泣く
挙げる盃交すのに熱き男子の血が通う

【S上】

或人が花に向って
「お前は咲いたって始まらない。すぐに散るのだから。」
といっても、彼にはそれが自然であり、必然であり運命だから、
美しく健全に咲き、そして結実の用意が出来た時、彼は散ることを
嘆かないだろう。

一九五三／四／一四

革命も恋も実は此の世で最もよくておいしい事で
余りいい事だから、おとなたちは意地悪く私達に
青い葡萄だと嘘ついて教えていたのに違いない

太宰治

愚行を固執すれば賢者となるをえん

自治の楽園

自殺はすべてを正当化する。だから私はこの道を選んだ。

「愛は死よりも強し！」　モーパサン

平和共存の過程において社会主義の優位を来し
帝国主義を弱めていく

本来の人間の姿に還れ

真実へわが皆く立ちて沈吟せしは三筋ある岐に路の中程なりき
一つの路は崎□たる石山の嶺に□ち登り、一つの路は暗き大野の

肩相の森の国に迷ひ・・・・・・・平沙の、狩り、・・・・・・・

精力善用青年よ尾奈仁素人になるな

知性をもって死に対抗せんとする人々に
死の影を踏んで生き抜く決意を新たにする為に
そして生存の為の犠牲としておのれ

徳と愛とが解けあっているような心があったとしたらどんなに幸福だろう！
折々私に愛するという事出来る限り愛します
愛することの他に一体徳というものが在り得るかどうか・・・
然るに時々私の眼には徳とはただ愛に対する抵抗だといふやうに思はれてくるのだ。
何？

私の心の最も自然なる傾きを目して「徳」と呼んでいいものだらうか
私の心の最も自然なる傾きを目して「徳」と呼んでいいものだらうか

見かけよき誘惑よ！
意地悪な幸福の幻影

まことの富はただ魂の内なる富だけだ
ほかのものはすべて利益より困難をもたらす

「憎悪」に売り渡そうとする盲目的衝動を輝く「愛」とおきかえるために。

【廊下】

心身の鍛練は畢境一つである

都に雨の降るごとく吾が心にも雨が降る

僕ハミジメデス。
僕ニ残サレタ方法ハ逃避ト死ダケナノデス

僕ハミジメデス。

燃ゆる恵迪
滅ぶ恵迪　よき眺め哉　　異端者の日記

暁の一発よく出る

人生とは幸福の追求である

日本は飼料として廃糖を輸入しているが
現在それは情なくアルコール醗酵に使用されている
そのため我が国は酒が溢れている

精々しっかり飲んでくれ

怠慢の弁明は許さず

怠慢を排せ！

そは我が魂の珠、悲しまず

人の行くところ何処なりや

Meine Jugend ist vorüber!

左翼反動保守民青は革命的右翼に□□□

我が心は空浮く白雲の如し

風に流さるるでも無くあくまでも白きかな

今日講堂に一千人

集めて語る声ふるう

我が憲法は良きなりと

ルッソー思想のフランスが

自由を得たる如くして

君等は強く戦へと

法学教授は教えたり

男子郷関を出でしも早や三星霜

北の都に迪を恵ねども

もはや別離を奏でんとす

人生は暇つぶし也

日共は日本から出ていけ！

遥かなる信子を想ひて独り運命の俺より大なるを憂う

県民の熱意でかけよう瀬戸大橋

くそ！死なんぞこのままでは

人生はドラマを地でいく

恋愛はかぐわしき花である
しかしそれを恐ろしい断崖のはしまで持っていくと
男と女は死を待たねばならない

遠き国よりはるばるとネッカー川のなつかしき
岸に来ませる我君に
今ぞささげん春の日の
心と麗しき花かざり
いざや入りませ我家に
あはれ去ります日もあらば

一枚めくる書物にも出てくるものは明日の去り行く人々の姿
我が姿に憤りでもなく諦めでもなく悲しみにも似ぬ涙
若き日の恋心のごとく西に東に我らの街を作らんと我らの国を作らんと
告げ得ぬ胸の弱さをば人々こそ強然むよじ
千尋の海の真珠貝珠を抱きて痛めること
君を想ひて病み臥せば我に永遠の光あり
砂山の砂に胸はらばい初恋のいたみを遠くに想い出づる日

啄木

南寮階下

【S下】

茫茫たる千里の波頭我大海にえり
無炎のみを頼りに漕ぎいだすその海原の広さ幾何ぞ
されど
北都に遊びし三年半
恵廸に暮せし二年半
我春青を過せし
思い出話につきすし
感懐湧く理なく
されば
我時は至れり
我古巣恵廸よ永遠なれ
我寮友達よ気丈たれ

壁は永遠に語らず
人間は無限に死に向ふ存在である

【九号室】

酒はのめのめクスリなり
たのしきはたのしめ明日知らぬ人の命ぞ
汝ら寮生大いなる野心を持って杯をとれ而して宇宙を飲みほせ

【十号室】

'78 を新寮斗争勝利の年に！

道を行くて悩み生長せよ

It is the most beautiful act to take a sexual inter course
in this world,for,at this we forget everything
about tort v re,to live.

嗚呼惨めな犬よもしも私がお前に糞便の包みを與へたならお前はそれを夢中で鼻づりして恐らくは貪り喰ったかもしれない。そんなお前もまた、私の悲しき人生の道づれよ。お前もまた、あの民衆にそれを怒らせる微妙な香料を決して與へてはならないところのしかし用心深く選択した汚物を與へなければならないところ、あの民衆に似くるとは。

【十一号室】

近きかな楡林を去る日は

還り来ぬ足跡愛しみて
ひたぶる打笑む時ぞ
求めつつ偲べからざりし
求めし真理道は
遙かなり我等の行手進まざらめや

【十二号室】

昔男アリケリ
その男生来酒をこのみて
日夜呑み
明るに或夜常な心地よく
滅び行く我等が寮を歎かず也
人間の交際はしばしば壁でさえぎられる

うぬぼれ（自己過大評価）　自己主義　謙遜

【十三号室】

今の世の中ははったりで出来ている
小さなのが失敗して大きなのが成功するのだ
何でもいいからでっかい事しろ
寮でくすぶってるのは衛生的でない
どんなに暗い夜だってやがて明けて朝がくる
がんばれ！がんばれ！
希望をすてるな朝は近いぞ　さあ兄弟
人間は意欲し創造することによってのみ幸福で有る
幸福の全ては現実の生活そのものである

【十四号室】

人間はいつか自然を見つめよい時がある

英才なり然して運動は
努力ハ秀才ナリ肉体ハ天才なり

ゴリラ様
ブル様
マリヤ様
九転十起

雨が降りてるてる坊主が泣いても
私たちは泣かないで山を見つめる
髪が去りおでこがひろくなっても

私たちはめげないでジョイで軟派する

【十五号室】

Über den Bergen weit zu wandern
Sagen die Leute wannt das Glück
Sch,und ich ging in Schwarne du Andern
Kammit verweiatan Angen zurück Über der Bergen,
weit drüber Sagen die Leute,wahnt das Grüde.Karl Busse

偉大になろうとするならば多くのことをあきらめなくてはならぬ

遂げなば何ぞ恋の味
酒酢とならば何効
月と恋とは春の夜の
おぼろのみこそゆかしけれ

【十六号室】

女かマルクスか学内か

起床－Essen －沈没－起床－Essen－探検－沈没

恵廸十六号ベストスリー

1　吉永小百合
2　星由里子
3　未定
4　ユーミン
5　藤山陽子
6　森山加代子
7　司葉子

僕はもとより自分の中からひとりでに
ほとばしり出ようとするものだけを
生きようとしたにすぎない
それがそんなに困難だったのか

ゆるりとまいろう
無理はいたすまい
ひとり静かに唯ゆるりとゆるりと
まいろう

いつの日かすべて終わる
そして全てがむくわれよう
思い出と忘却の青空の下で

転ぶ運命に置かれて居る者は
カボチャの種につまずいて転ぶものである

【廊下・階段・便所】

若草の宿は心のあるところ　仄かににおふ
アカシャ　アカシャ　誇り延レイ草

人生のさまよいを知り人の心の美なるを悟る

生命の嘆き肉らいとこの北城に
何処の道と
花無くて
心つきぬこの美風
村はけふなく
流れ果つ

ここで文学を読み、詩を書き、悲しみにくれなん

流れるところとどまる知らず、とどまるところ流れる知らず
不滅なるもの信じ、不滅なるものを疑う

この部屋、俗塵で穢れた者入る事不可也

白熊の正体は永遠の□を求めて
北城の野に優雅なる日を送る

男児立志出郷関
学若不成死不還
埋骨豈期墳墓地
人間到処有青山

軟弱淫猥なる時潮の中で
我ら一同恵廸寮の支柱たらん

昭和三十三年度後期ストーム歴
十一月十日午前零時
　応援団第一回全寮ストーム（新寮生歓迎）
十一月十七日夜
　ダンスパーテー情激ストーム
十二月六日
　文化祭前夜祭ファイヤーストーム
一月二十六日
　新年挨拶ストーム
二月三日
　節分豆撒きストーム
二月二十二日

別離のストーム
四月十五日
　新寮生歓迎ストーム

10・21 学友反戦ゼネスト
現代の不安な時代に寮生よ忘れるなかれ

不安な時代に生きる我々に

長恨歌
（略）

和して同ぜず

人生とは永遠の過去と永遠の未来の間の閃光なり
その一瞬間に何をかなし得るや

男子の本懐とは御満弧なり
恋の勝利者となるに尽きる
古今を問わず万人の認むるところなり

我々人間はいつもはかない幻想の中に生きている

私は偶々自分が恋愛の資格を有するものと自認する程獰猛である
しかるにその認め方はすこぶる滑稽である

我友大雪に死せり

我こよなく旅を愛す
然れば今宵寮を去るに
ただ涙にくれなん
明日は人生の旅なれば

野にゆき山にゆき海辺にゆき
真昼の丘に花を
つぶら瞳に君ゆくえに
うれいは青し空にすし

野影多き杯をたどり
夢ふかき御瞳を恋なん
なやましき真昼の在に
さしぐまる赤き花に

君が瞳はつぶらにて
君が心は知りがたし
君をはなれてただひとり
日夜の浜辺に石をなぐ

悲しみをはにへ一人自分にとどめる
悲しめ悲しめ悲しむことこそ進歩する道

来ぬ人
宵待草のやるてふき
今宵は月もでぬってな

愛とは偽り也

去り行く者は悲しまず涙を決すのみ

愛情と友情では友情が重い
これ世の・・・

恋こそ人生の総て

恋は魔物

恋しま□□恋して・・

あのひとがぼくの手をしっかりにぎってくれたよ
あたたかかったなあ

青春はいかばかりうまわしき
されど、そははかなく過ぎ行く
楽しからんものは楽しめ
あすの日はたしかならず
ーロレンツオ　チディチー

自由の敵に自由を許すな

虚しき者汝の名はインポ也

無は真理なり

如何にいます父母　故郷を想ひつつ

回答文

汝ら寮生の自覚ある迄は断じて流行する

反スターリン主義挺身隊

中寮階上

【十七号室】

ヒヨリ身と
いう名に
命をかけて
共産党は今日も行く

【十八号室】

おお恋の春は
なんと四月の日の
変わりやすき
輝きにして
いることか

君のその長き
黒髪に
柔らかき
春の爽風を聴き
君のその赤き
口唇に
熱き接吻す

【二十号室】

北星慕情

柔かき夕もやにじむが如く浮びし君
清く優しげに我が頭上にあり
あし春は行く抒情調なる
北漠に歌曲を奏づるが如く

美しき月色に諧調す
物静かに□を
垂れたる原始の樹は
夢見心地に靄に浮び
今宵我が胸は
そぞろ君の心に融け合う

昭和三十一年

【二十一号室】

人生なんて全く不可解ものサ
全てが偶然なのサ、偶然が、
偶然が全てを支配してるのサ
唯、機会をうまく握った者が
成功しているだけサ。

孤独？
孤独だっていいじゃないかー
淋しいって？
だからどうしたっていうんだー
生きること自体が問題じゃないかー

美は必ず現実的表現を求める
真も善も又、日常的現実への実現を望む

悪し最善の最も生産的な人間の生や民族の生に□味を加え、かくて自問するがいい。他人天を□して聳え立つべき樹木が果たして悪天候や暴風雨に遭わずに、そうなれるかどうか。外部からの不利や反対、何らかの種類の憎悪、嫉妬、我儘、疑念、冷酷、貪欲、乱暴と云うものはそれなくしては徳に於ける偉大な成長そのものが殆んど不可能であるところの、あの有利な環境に属するのでないか、と。
弱い天性は蔽死してしまう毒は、強者には強壮剤なのだ。強者はそれを毒と

は呼ばぬ。

（ニーチェ）

石炭色の天に
冷い星が輝き
時空の十字架に
青く光るもの

死

【二十二号室】

僕は食って飲んで遊んで寝て一生を暮したい

僕は求める
酒と金と女を

そして
地位と名誉を

ねる子は育つ
ねる学生はドッペル

【二十三号室】

せんさくはよせ
えらぶるな
そして説教はよせ

―一九五五年―

対立無きところに進歩なし
批判なきところに展望なし
実践なきところに変革なし

情熱なきところに学問なし
ただ覚醒の一字のみ

【講堂】

無限の偉大さと
無限の卑小さ
その中間に位置する
人間
諸君
卑下するなかれ
高ぶるなかれ

酌み交す
モツラの美酒に
酔ひしれて

冷たき風に
君を抱擁き寄す
柔らかき
春の爽風聴く
黒髪に
頬を寄するは
我が無情なり

白き心を
熱くする
そんな時代は
今をおいては
皆無となす

【廊下】

過去の栄華より醒めよ、喝！

寮友よ　今に生きよ　栄えゆく恵廸寮に進歩あれ

若者よ　青春を克ちとれ！

生きよ　全ては貴い！

ミケランジェロは市民と共に破れた。
亡命し潜伏しまた呼び返された。
彼の天才のみにゆるされた。
彼は彼の敵のためにサンロレンツォを壮厳にした。
彫刻において彼は自由であった。
彼の悲痛はその彫刻に天の怒りと涙を封じた。
彼は市民を敵とする城塞の設計を拒んだ。
すべてをすててローマに逃げた。

愛するフィレンツェの地を
生きては又と踏まなかった。

ミケランジェロは人間と共にあった。
彼の無数の作は唯人間の叫びであった。
ダビデは純潔そのものの力と希望。
「晝」「夜」「朝」「夕」は形象に於ける巨大な溜息。
マドンナは心貧しきものの高き美と愛。
峨々たるモオゼは法王をも叱咤し、
六人の奴隷は岩の縛めに身をもだえる。
燦爛たるカベラ・シスチナの壁画は
人間神性の銀河系。

夢とは人生である

喜楽と苦悩の共存、それが恋愛である

もうじき夜が明ける
もうじき愛國者の時間が切れる
またあの賣国奴だけが歩く自由を持つ晝が来
またあの叛逆徒だけがうたう自由を持つ日中がやって来る
ジュヌア
早く銃を磨き、そして早く、お前の道を出で發つがいい
ジュヌア
ああ、私のジュヌア

自負が心のそれ故か
強がり忍ぶ恋しさを
気弱な我のそれ故と
身をさす秋の風嘲う

万國のプラレタリアート団結せよ

恋愛と苦悩とは表裏一体であり、
苦しまない恋は戯れに過ぎないのだ。

今日もひねもす
朝鮮の女達は着物を洗う
水にしたしては打ち
涙にぬらしては叩きして
今日も一日を
この江辺で着物を洗う
それは異国人でもない
同じ朝鮮人の銃剣にさされて
殺された夫の上衣であり
それはもっと住みよい朝鮮にしてくれと
要求しただけで
今は獄舎につながれている

息子の下着であり
それは幾度もの貧窮と
不幸に色あせた
もろもろの
思い出を語るぼろ達であり
あゝそして
それは
この恵まれない女達の
火もない暗いならわしのなかでの
ただ一つの慰めであり話し相手である
その家の系譜を洗っている
しょっぱい歴史を洗っている

哲学は思想の郷愁である

一九五二・五・五

俺の人生は死ぬためにある

俺は人を喰いたい

逢うときはいつも他人

人は自分のみ最高の者と思い、いたずらに他人は抑えんとする。
この時は君は黙する方がよい。

エゾにいて
赤き柿なる
冬枯の景色を思ふ
エゾにておれば

初雪のふりしきるまの
黒髪にわれが心やあやしく乱る

自然に従いて動く。
たとえ自分の意思に反して動いているような時でも自然の絶頂は愛である。
愛によってのみ人は自然に近づくことが出来る。

マリアのごとく全てを内に抱き我をやさしくつつむ
そんな女が好きだ

ヴァニティ、この強じんをあなどってはならない

死ねばならぬ、お前たちは行って死ね
苦しまねばならぬ、お前たちは行って苦しめ
人は幸福になるために生まれたのではない

ドッペリに明日はない

光ほのかに輝る月影に
ニンフの踊らんかの泉
今静寂にしずまりて
清きエーテルほの白く
原始の木立に漂へり
降る星かげに憩して
遙けき彼方を想ほへり
梢をわたる微風さえ
一際すがしきこの宵に
一人哀しく想ほへり
かの深遠なる憂愁に
語り合うべき友もなく
胸のいたみに耐えかね
一人涙を流すのみ

大臣大将の胸に光るは何です。

金鶏勲章？イエイエ違います。
可愛い兵士のしゃれこうべ
ポコポコ　／＼　／＼
お金持衆コップに光るは何です。
シャンペン？イエイエ違います。
可愛い女工の血の涙
ポコポコ　／＼　／＼

旅に迷った阪大生ここに宿す。
大通公園のスイカの味　我等忘れじ

人生は不断の闘いである。
人生はこれを闘いとるものだけに属する。
人生を闘いとろうとしないものは人生の傍観者であるが、
人生の生活者ではない。
「真理は知るべきものではなくして実践されるべきものである」

人生は鑑賞されるべきものではなくして闘いとるべきものだ。

花は笑えども顧みず
鳥は飛べども答えず
人生の青春万歳
面白盛り寮にして脳脳む数学の問題の□らす灯なり
辞書
寮の片隅
話しみたまどいの破れが
舌を出す
野暮を笑えど
苦にもせず

雪に伏す呉竹の
やがて世に立つ日を見よと学びの窓に跼まる
吾も希望を抱く也

アイボリーの指にまつわり
なよなよとして
解け難き
その黒きとばりの内に
我が身を投じて共に結ばん
歓楽の夢

白き頸の上にふさふさと
波寄する汝が髪よ
渦なす巻毛
放逸のみなぎる匂
我が魂の酔ひしれて
共に歌わん
愛の歌

「夏でも秋風の吹いている所」
「美しい恋の沢山ありそうな所」
この地にあこがれて私はやって来た

男も歩けば女にあたる。
女よりも大事なものが何かあると思う。
それとも・・・

昔の立身出世主義と現代のスター好みと本質的にどこが異るか。
どっちにせよ身にしみた苦労なくして得ない点は共通している。

名言をねらう生き方は無理で空虚だ
名言が人生自身であったためしはないのである

人須く自ら省察すべし
天何の故に吾が身を出生せるか

吾をして果して何の用じ
供せしむるを
吾既に天物也、必ず
天役有らん天役共まずんば
天咎必ず至らんと
省察してここに到らば
則ち吾が身の苟生
すべからざるを知る

汝自らの道を歩め
人をして語るにまかせよ

大学臨時法案粉砕のため
全学は無期限ストに突入せよ

スターリニズム打倒

偉大なる人間に於ける素質の一つは武士的良心の潔白さ――不義を憎んだり、妥協を賤しんだり、侮辱に対して忍ばなかったり、節操を固く持したりする事――を持たぬという所に存する。必要に応じて彼等は平然と不義を行い、卑屈を忍び、権謀を弄し、仇敵と妥協する事も敢えて辞さない。英雄は単純な武士を統帥し、彼等の上に誇然と君臨する。他のあらゆる場合に於いて天才の一般的範疇は決して単純なる道徳的潔癖性を持さないというのである。より偉大な精神にとってみれば、それが融通の利かない一つの狭量なものにすぎないからである。宗教といえど、聖者は潔癖すぎる徳行を喜ばない。

昭和三十四年

「三月の雪」

窓の外の
□汚れた雪の上に
最後の雪が降っている
いくらあせっても

もう無理だ
汚ない灰色を
白にすることはできない

さっきまで
ムクドリが五羽
コブシの小枝で
さわいでいた
いくらあせっても
もう無理だ
ムクドリも春に気が
ついたのだ

お前も知っているだろう
春の近いことを
もう山に帰れ

山になだれの叫びを聞いたら
シベリアへ帰れ

また本か
恋しいな
気障な奴等の居ないとこ
銭やお辞儀のないとこや
無駄な議論のないとこが
また一人ピエロオが
慢性孤独病で死んだ
みてくれはおかしな奴だが
垢抜のした奴だった

当日四月二十二日、監懲の改選が行われた。しかるに唯の一人しか立候補が出ず、その次の選管の改選の所□に言わく、寮内の重要な任務である監懲、その監懲、

その監懲を選ぶ選管に私はなりたい□、自から寮同胞の一翼を担おうとする者は居ないのか、ああ嘆くべきこの現実。寮における権利を主張する諸君よ、権利には義務がともなうものである。
このインポどもが。

中寮階下

【二十五号室】

南無妙法蓮華経

篤く三宝を敬え
三宝とは女、酒、タバコなり
　一万円札の聖徳太子

美は最大の偽りなり

H＝変態

俺は君を恋しているのではない　憐れんでいるだけなんだ
汝哀れなる女性よ　――遠き処より来りし男より

【二十六号室】

一九五八年六月十七日　寮生大会開かる
一、電気料金の枠撤廃
一、昭和女子寮の権利擁護
一、電気料金の不払い決定

一九五八年　六月二十三日　皇太子北大に来る

一九五八年　新聞委員会この部屋を占拠す

恋とは何ぞや　愚なり　愚なり

マルクス主義学生同盟前線派行動隊結成宣言　昭和三九年

ああ、人生の楽しきかな！
人生の快よきかな！
汚れなき絹と天鵞絨の上にも
かの人は歳多の愛を憮して

【二十七号室】

色は匂へど散りぬるを　我世誰ぞ常ならむ
有為の奥山今日越えて　あさき夢見し
酔ひもせず

〈会計報告は一切無用〉会計委員会室会計主事

造反有理

5.16 '70　講堂火災

発見早く寮生多数消火に当たり、延焼免れる

人間性豊かなる寮生たれ　自己反省

【二十八号室】

221期はホモの部屋

一八九期酒井委員会寮務部諸兄に告ぐ！
全恵迪寮の先進部隊としての
我が一八九期寮務部諸兄は
全ゆる傲慢を排し
大胆に問題を切開せよ！
スターリニズムの内在的対決を通して
自己の変革を克ち取れ

4＋Xと4の異いはXである

【文常室】

封鎖断固解除　トロ修タロ粉砕！

文化は常に発展するものだ
我々はこの流れに乗っていくだけだ

どうせ壊しちまうんだからよ　汚しちまおうぜ　S55.1.26

下降飛躍する関西ブントや日共に興味なし

第六二回寮祭実行委員会
　エンタプライズ寄港実力阻止！

革マルを入れるな！

日本革命を世界革命の突破口にせよ！

共産主義者同盟北大細胞

日本帝国主義の死闘を世界革命へ！

ああ青春の雄叫びよ

節ちゃんへのアッピール

これからは決して逆らいませんからぼくを許して下さい　お願い

民青のインポ性と革マルのマスタベ運動を粉砕し

精気溢れる□□□□

ビラはり同盟危機迫る！

非□的人間はバカだ

社共に代ワル革命的労働党を！

自殺者の心理は誰にもわからない

マルクスは上品じゃ

反帝反スタ

時という名の

理不尽な

おいぼれの

きびしきつばさに

日ごと日ごとにけずられて

消えていく

【便所・便所前】

糞たれんぞ

寮生よ、自らの思想・方針・戦術をもって
寮務部日和見民青から寮を解放し
寮解体なる攻撃の本質を見ぬき粉砕して行かん

民青・革マルの三里塚での破産をのりこえ
解放派の敗北主義をのりこえて戦うべし

民□　一発必中　一人一殺

反帝　反社帝

日共放逐委員会本部

恵廸解放区

民子さんへ
統一だ、団結だ　とドンドコドンドコやっていたら
お前何やってんだといわれて、心はしゅんとなった
北大全共闘

日共（および民子さん）にはボイコットで
革マルには嘲笑で！

日共＝革マル粉砕！
スルドイゾ！

新寮を建てよう！

トレペのアタック糾弾！

帝国主義国家を民主化すると共産主義国家になるんだよ。
知らなかったのかい、君達？
－日本「共産党」北大恵廸寮細胞－

日共差別者集団のデマキャンペーンを粉砕せよ
反共逆差別者集団のデマキャンペーンを粉砕せよ

【食堂・廊下・渡り廊下・階段】

酒こそ我が友

我孤独なりか

先進的革命的学友はＬ学同に結集せよ

青年より覇気を除けば蝉の抜け殻に□□□

男と云ふもんはめったなことで泣くんじゃない

いずれ近いうちにレコ管の時代が来る！
おれはそう信じて疑わない！

天下のヘンシュウ

過去の栄華より醒めよ　喝！

注！痴漢出没

見よ必殺ドラゴン拳

醒めよ！

生まれ落ちたる星の下
我身のさだめ
知るすべもなく
流るるままの人生に
当たるもハッケ当らぬもハッケ
信じる者こそ救われる

「占いコーナーです」

胃腸障害に悩む者よ！
食前食後に余の名前を十回唱えてみよ
胃腸はスッキリ快適な一日が過せること絶対

北都の風来山人

男児志をたてて郷関を出ず
学もしならずんば死すとも帰らず

アナタハ、ヤサシサトハ一体何ダト思イマスカ
苦シミヲ知ヌ人ハ、ソノ答ヲ出スコトハデキナイノデス
人ハ、ヤサシクアレ、ト願イマス
デモ、ソレハ偽リデシカナイノデス

Schön ist das Leben bei frohen Zeiten,
Schön ist die jugend,sie komnt nichit mehn,
Deceim sag' ich's noch einmal
Schön sind die yugendjahr,
Schön ist die jugend sie komnt nicht mehn

H.Hesse

楽しき時の生命は美わし
青春は美わし、そは再び来らず
されば重ねて言わん
青春の年々は美わし、青春は美わし
そは二度と再び来らず

泣くな笑うな　ただひたすらに理解せよ！　（フッテン）

ドイムポ委員会ケッパレ！

教えるとは希望を語ること
学ぶとは誠実を胸にきざむこと

「人生は一行のボードレールにも若かない」とは自殺して死んだ芥川の言葉である。だが彼の一生のよく諸□に示すことは、「人生は畢竟遊戯に若かない」ということである。

レコ管　驚くべき

羨君有酒能便酔
羨君無銭能不要

娑婆苦を娑婆苦だけにしたいものは
コンミュニストの棍棒をふりまはせ
娑婆苦をすっかり失ひたいものは
ピストルで頭を撃ち砕いてしまへ

教養部へ行きたしと思へど
教養部はあまりに遠し
今日また暖かきフトンの中
迷夢の中を漂ようのみ

寮生は家族だ！

Nur wer die Sehnsucht kennmt,
wuß was ich leide.　(J.W.von Goethe)

北寮階上

【二十九号室】

もしもお前が
よくきいてくれ
ひとりの優しい娘を想うようになる
そのとき
お前に無数の光と影があらわれる
お前はそれを音にするのだ
みんなが町で暮らしたり
一日あそんでいる時に
お前は一人石原の草を刈るのだ
その寂しさでお前は音をつくるのだ
多くの侮辱や窮乏のそれらを
噛んで歌うのだ　　バカナコトダ

神心

おお蛆虫よ
眼なく耳なき暗黒の友
君が為に腐敗の子
放蕩の哲学者
喜べる無数の死人は来たる
わが亡骸のためらうことなく食い入りて
死の中に死し
魂失せし古びし肉に
蛆虫我に問え
なおも悩みのありやなしやと

三四年

美しく幸多し女性
美幸さんに何故私はふられなければならないの
美幸さんを克服してオメコする

美幸さん私をすてないで

極楽浄土のめでたさは
一つもあだなることぞなき
吹く風立つ波
鳥もみな
妙なる法を唱うなる

Lautomne Sejr! Mais pourgue regretter etemil soleil,
si nous sommengegés á la Secwrerte de la clarte dir...
---loim des gens qui meurent sur les

Saisons

街は開かれた書物である
書く余白は無限にある

酒と女におぼれて
新大地をめざして来た

【三十一号室】

阿修羅よ
お前は何を見つめ
何を考え
何を欲し
何を恋するのか
やせほそったうで
ふくらした胸
するどい目
その体で何を言はんとしているのか
何を悲しんでいるのか
何をよろこんでいるのか

何を祈っているのか
お前は何もいわずに
日本の伝統を守りつづけている
限りない時の流れの中で
お前だけはいつも変りなく変ろうとせず
ただみつめる物は変っても
ただその姿で

俺は自分を愛する程
他人を愛してやりたい

勉強だけして
女も知らずに何の人生ぞ

寮生活訓
人間は一人でいる時、ねむりがちなものだ

親ニ孝友ニハ義
而シテ女ニハ愛

権力
それは愚者の尊敬
小児の感嘆
富者の羨望
そして賢者の侮蔑

吾れ憧れし美の国に
遠くふる里離れ来し
楡の木陰に憩せば
父母いかに
君いかに
つきるを知らぬ吾が想い

【三十二号室】

人の世のかくもはかなきものなれば
移ろい易き春の日を
蘆生の夢となすなかれ
二十の情熱(いのち)の尽きるまで
いざともどちよ
学ばんや
唄はんや

Heiraten ist gut.
Nichtheiraten ist besser! 1953

寮生閑居為不善

橇歌の淋しき夜は
しみじみ書を読み
春はリラの花咲く丘に
清らなる恋を哭くべし
山に生き
山に死んだ前田一夫君は
天国の彼方で我々の幸を
永遠に祈ってくれるだろう

花の乙女に恋すとも
道に迷うと云うなかれ
若き男子の胸に立つ
濃き紅の花の知る

【三十四号室】

寮生の望む新寮を早急に建てよ
自己の思想を語ることは所詮弁解に過ぎない

【踊場・廊下】

へんちくりんなカンキョーの中で
へんちくりんな人間が
へんちくりんなことばかり考える

人間の命には終りがある
人間の欲望には限りがない
ここに人間の悲劇が始まる

日本民主青年同盟に結集せよ
我ら人間らしく生きなん

ここより人民解放区
日本共産党よさらに前進せよ
恵迪よ永遠に栄光あれ

日本に独立と□□を
青年に明るい生活と未来を
日本民主青年同盟の躍進は続く

心はいつも夜明け

創造なき伝統は無意味である

「不眠街」
I突進
ひびわれて重き

物□ぬ□□
大理石に
童形悲傷は崩れて
□□□□□
誓いはかたく空白の頁に
剥製の愛を儚み
瞳釣り上げて議論する
コミニズムの来てみれば
少女の洪笑
性慾の嗅して
□□□□□
宝石輝からせ
原色に街をゆくカルメン
背信の十字架に微笑む
暗殺者のアフロディーテよ
欲情は眼□□□

噫、錯乱の戦慄虚体
焼跡の美学
絵画かれる薔薇色の現代史
やがては過去
歴史となるのなら

サラリーマン
こせ／＼していて
自分だけの益栄を求め
一生を金に振りまわされるサラリーマン
静かなる純熱の生□を生きる

万国博を目前にひかえて
かくも衛生的によくない環境の中で生きていく雑草のごときたくましさには
現代科学では明らかにすることのできない神秘性に我々はハッとするのであ

る。ここにおいて我々は現代の科学及び政府自民党の後進性とその限界を見せつけられるのである。早く僕のような情緒とゆたかなる感受性を保持する人間が傑出することを希求するものである。

札幌は寂しき処なり
北大に又
日本に又
俺は何処へ行けばよいのか

我友よ
他の大学はサラリーマン及び官吏の養成所である
わが北大は人間の養成所でなければならぬ

一九六〇

我あるに我なし
我が信ずるもの

我が生命となりて
我を生かしむ

北海道開拓の意気にもえて
健児ら此処に集う

コンパの夜が明け
少年ホレ易く
学成り難し

こんもりと繁っている
草むらが
小さいほら穴のまわりに
さかれたたまの
豊かにうるおされて
香り高い命の液に

あふれ出る
貝殻の緑をこえて

山はそこにあった
しかし登山電車は
ふもとまでで
自分は雲にかくれた
頂上の方を見上げながら
どうすることも出来なかった
降りさえすればよかったのに
たゞ山のまわりをまわっている
電車から一歩も出ようとしない
自分のふがいなさに苦笑している自分だった

己は己！
自己をみつめろ

組織への埋没を恐れろ
人間性回復を訴える
我も人なり　君も人なり

勤酒勤煙
これ孝のはじめなり

詩の道

病あらば詩に生くべし
家なくば詩に住むべし
恋を失はば詩に求むべし
禍来たらば詩に慰むべし
心さびしい時は
詩を祭るべし
朝に夕に詩をうたうべし

僕のすべての情熱を
たゞ君のためにぶちまけよう
杯に盛る芳醇の美酒も
僕を酔わせはしない
怠慢なるアフロディーテを
僕らの前に嫉妬せしめよ
溢るゝは瑠璃の涙か
黒髪の房なす豊かな□
君眉上げて僕を見つめよ
双手もて僕をいだけ

ふるさと去ること五百余里
北境寒風孤囚に厳し
北寮独房３３号
悶々として青春を没す
去りし恋を追はず

失せし人を想わず
しょう然として
自ら憐れむ
人生如何
曰く不可解
たゞ黙念して
移ろうを見るのみ

嗚呼青春
歓喜と希望を胸に秘め
俺は行くぞ蒼空に
迪を恵ねて飛んで行く

草原の輝き
花の喜び
たとえこれが消滅しようとも嘆くことなかれ

そのあとは
□□□のこれる□□□

レコ管の恐ろしさを見せたろやないか！
必殺飛燕真空二段蹴

天才とは賞賛に価しない一種の精神病である

北寮階下

【三十九号室】

何もしないで　行く秋や　一週間猛し

墨で書かれた虚言は　血で書かれた事実を
□いくることはできぬ　実彈に打ち出されたものは
青年の血だ　血は墨で書かれた虚言に
□はられず墨で書かれた　輓歌に酔わされぬばかりでない
威力もそれを□□□□□　ことはできぬ□□□□
なぜなら□□□□　騙され□□□□
打ち殺□□□□□

いつでも知らぬふりで　そのくせよく見てる
何故かいぢわるく　口をきかぬ

何故にいつも　　気にかかるのです

肝に銘じよ

「わが生涯での慰めは札幌にありし八ヶ月のみ」

―ウィリアム・スミス・クラーク―

美人を天の一方に望む

無は我々の傷から流れているのに

諸君は沈黙している

我々は自分のためにまっているのに

諸君は我々もファシストと呼ぶ

お前は何故生きているのかと答は出ない

その人間が生きているかぎりは

【四十号室】

藤波の咲くをし見れば　故郷に残しし人のなほ忘れ得む　　望郷子

忘れむとすとなかなか望郷の思慕断ち難く

微風吾によりてかすかにたわむれ

ススキおののきて吾を見る

静寂にも黄昏ゆく山の姿哉　己が思索はなほも乱れつ　　秋暢子

文書読むは己が思想を逃れ出て　他人の思想に入るぞ嬉しき　　彷徨子

我々は妄らな言葉で自然を汚すまい

Reichtern ist nichts gegein

Gesundheit.Aus nichts wind richts.

俺の嫌悪すべき過去は去った
今日から新らたな戦いがはじまる

新しき静日々に幸あれ！
寮生よ！台風の影響により
寮雨増大洪水の高そあり

天高く南瓜トウキビは石狩の
野に豊かに稔り
寮生は五十五円にもめげず肥ゆ

純子さん　永遠に清純であれ

Girls,be ambitious.
Boys,be careful.　　クラーク先生のお言葉

【四十一号室】

惜別　－めぐりきた春－

春がまためぐりきた
このすばらしき早春に
我を育みしこの寮に
別れを告げなければならないとは・・・
二歳の短かき宿（やどり）なれど
我が魂（こころ）の
なんと大きく育ちしことよ！
いまはただ
静かに別れを告げん・・・　70・3早春

残雪に立て白樺の春近し　照子

連帯を求めて孤立を恐れず

金持ち万才　くたばれ貧乏人

今日の異端者は明日の正統者である

【四十二号室】

嗚呼　喜びにつけ悲しみにつけ
歌いしかの調べ
懐かしき祖母の顔となりて
たまゆらに生れを思い出に戻さらん

人は何の為に生るや
明日あるを信じて生きたい

万人が等しく幸たれ、心から喜びたい

帆船が去って行く。海水は船首に二分され、やがて又一つに合はさって、そこには何らの表情をも止めない。人生も亦斯くの如きものだ。人生帆船――そこには幾多の悔いや悲歌が横臥する。だが、それが何だ！我々は仔羊ではない。そして又、老ひぼれた羊でもないのだ。

男児有恵廸

男児必恵廸　終日為熟睡
異郷千里道　唯之空虚也
怠慢何憂哉　彼岸有聖人
五天携鉄身　否運末悲観
氷下清静水　我魂眉雪色
他日乗心我端　幾思鬼潜調
天下平奴輩　求光栄快祭

無良波死

【四十三号室】

恵迪の門をくぐったのは一九六五年四月五日でした。
今日こうして同じ門から出て行こうとしています。
門は同じでも僕はすっかり変貌をとげました。
ディスカッション□□□□したりコンパコンパに
あけくれたり勉強□しました。本も随分読みました。
そして□分の脳細胞で考えたものです。
青春の□鉱炉、それが――
僕の愛した恵迪寮です。さようなら

僕にとって恵迪は青春そのものでした

【四十四号室】

草合ッテ、門ニ径無ク、煙消エテ、□ニ塵有リ
憂ヒテハ正ニ、酒　聖又知リ、貪シテハ始メテ
銭ノ神ヲ悟ル可々

貴女は何をなすべきか

天才とは努力なり

ラーメン天龍　焼酎５０エン　　ハッタリ親父

カフェー処女林・多数処女？による大出血サーヴィス場所に何処？

人間とは産（３）に始まり死（４）に終る
すなわち１である
嗚呼人生のなんと短き！
１とは長さかりや？

【廊下】

寮生よ　自然に帰れ　　久美子

新論語

我0才にして生れ
我七才にして初恋を知り
我九才にして失恋し
我十八才にして惑い
今日に到る
あゝ人生とは何ぞや　　一九五九・九・二六

求むるは創造に依ってのみ与えられむ
ユーゲントコール住人

三ツに一ツの偶然からじゃんけんぽんで勝負は決まる

俺は月に口づけをしたい

みなさん　一九七〇　五／十　火事がありました
火元には気をつけましょう

女は弱し、母は強し、吾に休息を與えよ

いかぞいかぞ思惟をかへさん

権力の見えざる姿を知れ

全宇宙　唯我独尊

若人よ徒に刹那を求むる勿れ

ヒロイズム

安価な英雄主義を堕し
一面の論理をもって全てを規定せんとし
言葉を單なる自己辯護となすな

ダンベ食いたい

朝に女を知れば夕に死すとも可なり

少年ほれ易く学成りがたし

恵廸＝Boys,be ambitious!

メノコ輝するヒトミを慕い
遠く北国に歩を進めん

恵迪寮よいつまでも吾青春の故郷たれ

もうこれから酔っぱらってヤーサンにはからみません　S53.6.10

義理と人情に生きる恵迪寮生

夫天地万物之逆旅　光陰百代之過客　而浮世如夢

ふるさとに母独りと思せば
我いかに在らん北国に
思い出します貴女のことを

バカな男がバカな女にほれたのが間違いのもとだったのだ

憂北よサラバ　故郷は遠くにありて思うもの

展望

未来は星の如くに輝き過去はその陰影の如くにまどろみ
日々生きる中に将来への躍動と懐古への憧憬をみつめ
実り多き人生を成就せられん事を託す
水産生追コンの非情と感激並びに
自己の寮生活半年目の感慨をここに綴る

昭和四十二年前期四二号住人

諸君ヨ
社会ハ常ニ正義ヲ愛スル人材ヲ要求スル
人生ハ短ク学問ハ長シ

昭和三十五年六月二十二日
北海道大学恵廸寮寮歌愛好会

私はあなたを

恋していました
ものおじしつつ
疑いもだえつつ
言葉もなく
望みもいだかず
かくも誠を□□
優しい心で今□□
あなたが他の人から
同じ心で恋されると

一九六七年四月三十日

名もなき旅を行く勿れ
名もなき道も説く勿れ
甲斐なき事を嘆くより
浸りてうまき酒に泣け

四十三号室四十二年度前期住人

佐藤自民党政府の沖縄現状固定化政策を怒りをもって糾弾する

【便所】

革新団体続々日共批判

ざまあみろ

やい民青死んじまえ、なにが革新の大義だ
でけえことばっかりいいやがってこのファシストめ
生きてられるのはあと数年だぞ、バーロー

武装蜂起を指向する革命的プロレタリア党の早急な建築を！
国家権力への人民の歴史主体としての階級形成と攻撃的武装でもって対峙せよ！
前の敵との対峙を構える革命的勢力人民に対し、銃後から敵と呼応し反暴力の名の下、“歴史的成果物”の防衛と分配に狂奔する日「共」等の悪質な反革命分子

との対決を！

我々中央大学革マル派のおもな行動は、援農と称する三里塚空港における開港阻止が当面の予定だ。毎日曜日に成田に集まり空港までの道のりをデモとシュプレヒコールで付近の住民の協力を得て斗っている。君たち北大革マル派も近辺の大学と共に斗え！我々は東京大学・法政大学・東洋大学その他の大学生と共に斗っている。年内開港は絶対しない、いやさせない。三木は年内開港を予定しているがそれは無理だ。では諸君、新聞を見てくれ。九月上旬はまた我々は国家の番犬と斗う。

便所で斗うのが好きなのは北大生ばかりではないようだ。
それにしてもこの下半身の脱力感は何事だ！

モスクワ大空襲

殺人鬼・大どろぼう・サギ師の「ソ連」、
それにあこがれる、こそどろ日共、万引・チカン民青、

ミナ殺しクレムリンに水爆を。
米帝・ソ社帝による覇権主義を粉砕せよ

——大日本攻撃隊

革男は民子が大きらいで民子は革男が大きらい。
革男は民子が相手にしてくれないのでひとりでマスをかき、
民子は革男のマスを見ながらひとりオマンコをいじくる。
ふたりはいつも憎み合っているのに別れない。
なぜならふたりは“兄弟”だから。

連帯を求めて孤立を恐れず
力及ばずして倒れることを辞さないが
力尽くさずして挫けることを拒否する

キャンディーズを求めて孤立を恐れず
力及ばずして倒れることをも辞す

恵廸キャンディーズ友の会

日共＝民青諸君、
盲目的な反トロキャンペーンはやめたまえ
君たちにはマルクス主義者としての主体性のかけらもない

反帝反スタ

第3次世界分割戦の危機を世界革命へ！
革命が戦争を押しとどめるか、戦争が革命を引き起す。
しかし世界の主な傾向は革命である。

百恵＝友和の結婚を阻止せよ！

革命的モモエ主ギ者同盟中央執行委員会芸能局

北大革マル派戦士諸君！

諸君の北大での健斗を祈りつつ本日帰京する
次の渡道は来春の予定　　――中大革マル派

何時でも自分だけは正しい孤高の人、それは民青
何時でも自分だけはヒーロー独善の人、それは革マル

祝　寮生大会
民青中心の寮生大会失敗は国のためですね

アグネスをはだかにして荒ナワでしめあげて乳頭をセンタクバサミでつぶし
マンコに大根をブチ込んで殺してしまえ

新入生諸君！日共＝カクマルの陰温な妨害をはねつけ自らを獲得せよ
→（あほがまちがえていた）

真の友アメリカに攻撃をかけるべきでない。悪は赤帝ソ連である。

大東亜戦争ソ連不当参戦三〇周年にクレムリンに水爆を御馳走せよ。
――愛国攻撃隊

負けて日本は良かったという言葉は負けたものの自己正統化にすぎない。
まだ遅くない。敗戦記念日、ニューヨークに原爆をおとせ。
――日本愛国戦線

新寮階上

【四十五号室】

徹底するべきと考えた事は徹底した方がいいかな

♥おじゃましました・・・・

“愛の水中花”

松阪慶子　1979.11.1　♥

【四十六号室】

昭和47年2月末日

真に生きるとは現実を直視し、誠実に探究することである。

人類の解放を目指し、腐臭を放つ現代情況に亀裂から変革をせまる。

私の悩み　ワカメ
どうして私はこんなに目が細いのか？
といつも考えてしまう。両親は細くないのに、
私だけ。誰か教えて！

私の悩み　ネッシー
私も悩みがあります。ふつう女の人はでてるところは
でているのに私だけナインなんです。ネエどうして？
ナインちゃんなのにオシリだけは大きいんです。
だれか□□で！

いとしのあの子は留学生
そんならぼくかて留年生
そういうあなたも留年生
まけるな留年！

一度や二度や三度や四度や五度や六度や七度や八度・・・
失敗なんぞ！ぶっとばせ！
がんばれ、けっぱれ留年生！

【四十八号室】

“学而不思則罔　思而不学則殆”
・明かりをもって目を閉じるようなものだから暗い。
・われと我が心を苦しめながら学問をせず、ただ自分
　の心を頼りにめくらめっぽう人まねをする。だから危い。
（幸田露伴の講釈）

しかしそうだと思ったら何でも本当にやってみることである。
徹底してやらなければいけない。それでこそ理想を描けるので
あって社会通念に従って生きてゆこうなどと思っていて理想な
ど描けるものではない。
岡潔「春宵十話」より

【四十九号室】

「恵迪落書」33.9.23
コノ頃寮内ニハヤルモノ
アタック　タンツェン　二人ヅレ
ラブレター入レタル細ツヅラ
本業ハナルル謀学生
単位トルトハ珍シヤ

自己の内部に鋭くメスを当てる事なくして
主体性は語れない。
思索する事を放棄せずして生きようではないか。
そこに於いて我々は友であろう。

自己の運命の指導者

自己の運命の形成者
私はこのことを誇と思う
誇り高き男

【五十一号室】

札幌は大なる田舎なり。美しき木立の都也。
アカシヤの並木に秋風吹き候。
水は冷たし静かにして淋しく、
しめやかなる恋の沢山ありそうな処なり。

男は女にとって最初の男であることを望み
女は男にとって最後の女であることを望む

微分・・・・微かに分かる
積分・・・・分かる積り

立方根・・・ごぼう
平方根・・・れんこん
独語・・・・ひとりごと

女より酒だ！
酒のためならへつらおう
酒は正義だ真実だ！

私はＲ１再試が終わるまで禁酒、禁煙、禁パチ、禁マス、禁ＴＶ・ＧＡＭＥを
貫徹することを誓います

S54.10.25

反煙青年委員会
反煙斗争委員会
反煙を考え「行動」する会

【五十二号室】

人生は落語だ。それは馬鹿が主人公だ。

飛ぼうとすれば内に向かう
地を這って外に進め
そうすれば目が見えなくとも
前進を確かめられる

吾が光明とは、私にとって真理であるような真理を発見し、私がそれの為に生き、
死にたい、と思うようなイデーを発明することが必要である。

＜１９６８・４・１６＞

我ガ胸ノ燃ユル思イニクラブレバ煙ハウスシ桜島山

人声劇場より

見る前に跳べ、人間五十年化転のうちに較ぶれば夢幻の如くなり

不笑
不飾
不言

一九六九年七月十六日
月面への人間初の歩みを残すためにロケット打上
一九六九年六月二十八日
五派連合教養を封鎖する
七月三日
今日も民青殺せのシュプレヒコールが聞こえる

【西側踊場】

天下の北大俺でもつ

【廊下】

初恋の去りにし日に　今は遠きあの日々よ
貴女に心を奪れし　我心のときめきを
貴女には知らぬ事にしか　今は去りぬる遠き日の
おもいは今も尽きぬもの　あわれ菊水今何処
あはれ彷徨ふ我心　遠き去りぬる貴女ならば
今は悲しく思う日の　夙夜に思ひしたのしい日々を
あはれあの日々帰り来て　我心をばみたせばや
我心をばみたせばや

一ぺえやっか？

俺は五才の時初恋をし
今は・・・？

女を断ち仙人境地になる
俺は待ってるぜ

北帰行

一、窓は夜露にぬれて
　都すでに遠のく
　北へ帰る旅人一人
　涙流れてやまず

二、富も名誉も恋も
　遠きあこがれの日も
　淡き望みはてなき心
　栄光我を去りぬ

三、我を入るゝに狭まき
　国ぞ去らんとすれど
　せめて名残の花の小枝
　尽きぬ希望の色ぞ

四、我は黙して行かん
　何を又語るべき
　さらば祖国よわが故郷よ
　明日は異郷の旅ぞ

1979・10・1
恵迪は新風を得る！
必ずや新寮斗争勝利する！
寮生の団結で
　卒寮生（水産）黎明社住人

名古屋ヨイトコ一度ハオイデ
可愛イアノ娘ガ待ッテイル・・・
　マッタクスバラシイ
　作詞オジイチャン

別離の涙が乾いた時、新しき出発である。

天下の諸兄姉よ知行合一の精神を持とう
机上の空論、欺瞞的な議論に口角泡をとばしても何とつまらぬ事か
また若さにまかした行動、何んの裏付けなき行動、衝動的行動の空しさ
実践に至るプロセス、そこに知ること、換言すれば思索すること、
自分のものと消化された創造的な思惟と、それを裏打ちしたところの行動の一致
これが正に我々に必要だ
現代に生きる者よ、古えの儒学者思想を考えなおしてみようでは

三八・十一・九

クラーク先生を懐しむ
青年奮起立功名
馬上遺言籠熱誠
別路春寒島松駅
一鞭直蹴雪泥行

心に歌を・・・唇に太陽を・・・
唇に歌を、心に太陽を
生まれ出ずる悩みは怒とうの如く・・・
生まれ出ずる悩み、そはバラの花の如く・・・
いつの日か会い、いつの日か別れゆく・・・
かくて我らの魂は・・・
清く沈みゆく・・・

S42

異郷の玉杯を仰ぎつゝこの月をいかに思うらむ

——千恵子

氷輪天中をさす河上のほとり
小舟の二杯、三杯
乾坤静かに我が蛮聲を求む

昭和四十二年三月二日

私の寮生活は常に「内地」との闘いであった
生粋の道産子

今日の睡眠は辛かった　あとは焼酎をあおるだけ
どうせどうせ恵迪のドヤ住まい
他にすることありゃしねえ

夜クソをするくせがついてしまった
新寮便所に真夜中しゃがむのは恐しいことだ。
46号編集

恵迪寮生ヨ同胞意識に目覚めヨ！
一九六七・二・十二

【東側踊場】

もっとニヒルになれ
世をあざわらせ
それが今の俺に与えられたものかもしれぬ

勝手に乗り越えよ革マル派
君らは言葉だけで斗争する

帯広は水と空気とお菓子のうまい所
雪と氷の国から遠征す

京の北山背に受けて
東に流るは加茂川の
西に見ゆるは金閣寺
間にこもれる大徳寺

その一

忍ぶれど色に出でにけり我が恋は
　ものや思ふと人の問ふまで

寝ては夢起きては現幻のあの人は
遠く故郷の富山で今我のことを
考えていてくれてるだろうか
人は云う、以心伝心と、ａｂｅｒ我の場合は
如何ん、ダンスの時、喫茶の時
右記一首胸に浮ぶ
必や彼女を我なくして生きれぬ人となさん
昭和四十二年三月二日

その二
遠き異郷の空で勉学に励む貴君を思ひ
私も同じ星の下（もと）、毎日仕事に励み
時には過ぎさりし日、あなたと共に過ごした

ひなまつりをなつかしむ毎日です・・・
四十二年三月三日

右記手紙をみて読める
冬の日の逆く雪に君思ひ　故郷遠し杯取らむ
三月三日

阿寒の峰の雲青く風かぐわしき広野原
耕馬のいななき高くして・・・
一九六二年十月一日

川本ちえみ、飯野悦子
Ｓ５５・６・８　そうじしました！

私は到頭、私以外の全員を莫迦だと云い得る
死は涼しい夜だ

生は蒸し暑い昼間だ
早や黄昏そめて私は眠い
昼間の疲は私に重い

新寮階下

【五十三号室】

死んだ人々は還ってこない以上
生き残った人々は何が判ればいい？
死んだ人々には慨く術もない以上
生き残った人々は誰のこと、何を慨いたらいい？
死んだ人々はもはや黙って居られぬ以上
生きのこった人々は沈黙を守るべきなのか？

時に諸君は何故に諸君の精神を博大たらしめんとするのか。
むしろ微妙たらしめ給え

「白鯨」より

【五十四号室】

命短し　恋せよ乙女
紅き　くちびる　あせぬ間に
熱き　血潮の　冷えぬ間に
明日の　月日は　ないものを

Ich liebe nicht dieses zimmer,sondern Liebe.

【五十五号室】

Efforcez-vous denter par la porte étroite,
car la porte large et le chemin specieux ménent à la
pendition,et nombreux sont ceux qui y passent,
mais étroite est la porte et resserree la
voie qui conduisent à la vie,et il en est peu qui
les trouvent.

昨日またかくてありけり
可不可（カフカ）

寮生よ自己に厳しかれ

人生は死によって
その第一音を奏でらるる
未知の世界への
前奏曲にあらずや

全学連万才！

ゲルありなば春遠からじ

ゲルなくなりて親と健康のありがたさを知る

全てはこの一刻にある。

神を創造した人間は偉大だ　　（新マタイ伝）

Half mich doch kein Weh und Ach!

万国のプロレタリア団結せよ！
学生は、マルクス・エンゲルス・レーニン・トロツキー・
ローザルクセンブルグを学ぶだけでなく、行動せよ。

勤評反対！

俺は、やりたいことをやり、やりたくないことは絶対にやらない
エゴイスト

【五十六号室】

愛こそ全てだ。然して君の学問すらも、未知なる世界に対する関心からではなくして、君だけの学問的興味からではなくして、人間愛からなされるべきなのだ。

若き二十才（はたち）の頃なれや　人生意気に感ず

喜びはつかのまに
悲しみは去りがたし
いと甘き色戀も
悲しみの種となる
日もひとひ暮れぬまに
戀いではやうつろいの
うつろえばしかすがに
悲しみよ我が戀となれ

昭和三十一年

過ぎし日を見つけし者達よ
今来し方を視つめよ
明日もまた
人生の旅路なり

一九七八

思考→実践！

寮生意識からの脱却

寮の現状
我笛吹けど
汝等踊らず

63.7.25

It's been a hard days night.

I should be working like a dog.
I must fight,fight and fight.
Fight - this word is one which I like.

【五十七号室】

酒をたたふる歌かけど
女をよしと歌へども
臆病者のかなしさよ
せうことなしにその男
草の花を愛でてあり

禁足令に際し
しみじみと秋の気がする
あし可憐なる君よ
二人肩を並べて

勇しく思索く道を
辿ろうではないか

昭和二十七年

一人郷関歳再除
慈親消息定若何
京城風雪無人伴
独剔寒燈夜読書

夏の日の
海はさびしや
癈園に
七いろ変わる
あじさいの
花にも似たり
君あれば

海は微笑み
群青に
燦きわたれ
君去れば
夕砂に
いろ褪せし
なげきをうたう

【五十八号室】

もし私が私のために存在しているのでないとすれば
だれが私のために存在するのであろうか
もし私がただ私のためにだけ存在するのであれば
私はなにものであろうか
もしいまを尊ばないならば、いつという時があろうか

我庵は都の真北
熊ぞ住む
世を恵迪と人は言うなり

一九七三・七・十二を忘れるな

日米安保条約条文
（本文略）

【五十九号室】

躍動する社会の下
日々すごしぬ
日米安全保償条約
テロリズム
浅沼暗殺

一九六〇前期

頭脳は哲学であり
プロレタリアートである！
マルクス

羽根があるのに飛べないと思うな
羽根がないのに飛べると思うな

自分を愛する程完全に他人を愛するようになりたい
自由に朗らかに愛をもって
すべての人を嘲ったり、憎んだり、怒ったりして遣る事が
出来るようになりたい

三十九・四・十

【六十号室】

ああ孤独の悲痛(かなしさ)を
味ひ知れる人ならで
誰にかたらむ冬の日の
かくもわびしき野のけしき

私は魚であればよい
あんなにぴちぴちすばしこい
そこにあなたが釣りにくる
すると必ず釣られよう

俺は一度しか無い青春を無駄にしたくないぞ
世のメチ公共よ

大地に尾根にふりしきる
雨□ひびきのしめやかさ
うらさびわたる心には

おお雨の音

【廊下】

北の原野に風死して声なく
星のみ燦として降れり
一抹の寂寥胸を過ぎる
望郷の想に涙心を濡らす

五三号四五年後住人

私はみてしまいました
見てはならないものを
垣根のむこうに
禁断のきれいな
花をみたのです

六一・九

つくられるものはつくり
主の計画の中に自己の運命を見出さねばならない

今日は私の川は濁っている
いつもならよく澄んで
底の小石や砂が
見えるのに
そして神様や木や森も
映るのに
空もどんより曇っている
なまあったかい風
子供たちが
私の頭の中で
泳いでいる

六一・九・二十二

僕は密にし慕情を寄せている
甘く淡いあの日の思い出ははかなく消え去った
僕は今、現実の僕・・・
引き裂いた罪
僕はきっと勝ってみせる
現実の□しし矛盾に一生戦い挑む
僕は反社会的な人間として生きてゆくことに全て
満足せねばならないのである

愛のために生き
愛のために死ぬことは
最大の幸福である

我等が孤なる魂は何処へ。
旧りた楡林は何も語りはしない。

然れども我等は行く、開拓の意気に燃え。

一九七一・十二・三

腹が減っても試験の時も想い出すのは君ばかり

しのぶれど色に出にけり吾が恋は物や思うと人の問うまで

立志

郷里遙けき
寮にて我志を□ふ
郷友よ郷人よ
待て我は還らん
腕組みて起たん
郷人のため
われらがくにの
幸のため

S36年9月

告別の日
こんな日々はもう来るまい
素直に笑え、怒れ、
そして誰憚ることなく
涙が流せたところよ
今日限り
お前の中で夢見ることはない
お前を抱くこともない
しかし、明日からの生活がどうなろうと
俺は怒りと涙と笑いの精神を
いつも忘れまい
――俺よ
黙して去ろう、そのこころで

一九六二

何処であれ他国で暮らす事は言葉に盡くせぬ幸福である。
――それは吾々の二つの憧憬、即ち漂泊に対する憧憬と
故郷に対する憧憬との綜合
――生成と存在との綜合であるから。

探検とは知的情熱の肉体的表現である　――北大探検部

名聲の甘き聲も何かあらん
處女(おとめ)の胸よりも戀の吐息にくらぶれば

「無」

人は皆無に向かって生きる
華やかな日々は是、虚無によりて裏うちされたものなり
すべて静止のもとで動的行動が計られる
愚かな煮物、それは人間以外のなにものでもない

【便所】

花は桜木　人は全共斗

歌声運動の不毛な土壌に別れをつげ
凡百の革命のさわぎの白々しさにも
嫌悪を覚えたとき残されたものは・・・

おいらの首に鎖はない。鑑札はない。
おいらは無登録でうろつき、ゴミ双をあさり、台所をのぞく。
おいらには主人もない。家族もない。
気にいったやつがあればゆきづりに野合する。

「民青＝革マル」はその救いがたき選良意識の内在、またはそれへの憧景の故に、我々を量として見ている。我々を頭数や量としてとらえ、それを「力」

にかえようとする。当然「力」とは、民青＝革マルの権力以外ではありえない。だが、我々は、我々を〈個〉としてみる、質としてみる。それを各〈個〉の力にかえたい。「対立」という現象で現われるだろう各〈個〉の力・・・その「対立」、自覚した「対立」の中にこそ可能性を認める。

対立
　　現像（目にみえる）「民」と「革」の近親相姦にすぎない
　　本質的

ノンポリのなかには両人のヌレ場に
とびこむヤボ天もあとをたたない

おわりに

閉寮から十年、念願の落書集がやっと出来上がった。嬉しくもあり、ほっとしている。三十才を過ぎて今さら何をやっているのか、と同期寮友らの失笑、憫笑は覚悟の上である。

我々の恵迪寮での役割は無論、寮史の刊行であった。しかし、刊行作業は遅々として進まず、いつも申し訳ない心持ちでいた。一方、いつの代かは判然しないが、先輩の編纂委員会が寮内落書きを書きとめた資料を残して下さっており、これを記録にとどめておきたいとの思いがあった。

先年漸く荒沢編纂委員会の手により恵迪寮史刊行と成り、汚名挽回とばかりに、俄かに落書き記録集刊行の企てが開始された。が、卒業目前の有志の個人的企てであった為、事成らず、卒業後の作業は社会人の道楽としてのんびりと進めることとした。

作業は前述の資料を礎に次の諸君のご助力を得て進めた。

佐々木欣也君（昭五五年入寮）、松本清嗣君（昭五六年入寮）
日向野悟君（昭五七年入寮）、伊藤博文君（昭五八年入寮）

渡部直樹君（昭五九年入寮）、野口正人君（昭五九年入寮）

本書はあくまでも卒寮生の個人的道楽であり、本書について色々ご意見もあろうが、文句を言われても困るのである。勿論、現恵迪寮には一切責任の無い旨、現恵迪寮自治会の名誉の為に申し添えておく。

ただ、道楽とは言え、本書が、単なる後ろ向きの思い出としてだけでなく、前向きな姿勢の為に役立てば、と恥知らずな希望を抱いていることは、「はじめに」で記した通りである。

恵迪のプライドとともに、卒寮生の活躍と、恵迪寮自治会の発展があらんことを祈って。

昭五五年入寮　榊原悟志

北大恵迪寮落書集

一九九三年六月　初版発行　（非売品）

編纂・　榊原悟志
発行者　〒四四四－一三
高浜市芳川町三－八－三

印刷所　ツルシロ印刷
西尾市桜町二－二七－一